足利氏発祥の地

栃木県　足利市

足利市は、栃木県の南西部に位置する両毛地域の中核都市です。北部は足尾山地の緑に囲まれ、南部には関東平野が広がり、中央部には渡良瀬川の美しい流れがあるなど、豊かな自然に恵まれています。大正10年（1921）に足利市制を施行して、令和3年に市制100周年を迎えました。また、足利氏の居館跡であり、本堂が国宝に指定された「鑁阿寺」や日本遺産に認定された「足利学校」をはじめ、藤やイルミネーションで有名な「あしかがフラワーパーク」、伊萬里・鍋島の展示が世界最大級の陶磁美術館「栗田美術館」など、歴史的・文化的遺産を足利の誇る名所として広く全国にPRしています。

足利市は、足利氏発祥の地です。源義家（八幡太郎）の孫・義康が足利氏（源姓）を名乗り、鎌倉時代には2代目義兼が居館を堀の内（現在の鑁阿寺）に置いてこの地を治めたことに由来します。義兼の子孫も足利に多くの寺社を創建したことから、市内各地には足利氏ゆかりの寺社が点在します。また、室町幕府初代将軍の尊氏は義兼から数えて7代目にあたる源姓足利氏の嫡流です。

市内東北部の樺崎町には、足利氏ゆかりの「樺崎寺跡」があります。樺崎寺跡は足利氏の氏寺跡及び廟所跡で、浄土庭園をもつ中世寺院の遺跡です。文治5年（1189）に足利義兼が奥州合戦の戦勝祈願のために創建したとされます。平成13年に国史跡に指定され、鎌倉公方の足利持氏が再整備した当時の復元を目指し整備を進めています。

樺崎八幡宮

樺崎八幡宮は正治元年（1199）、足利義兼の生入定の地に八幡神を勧請し、義兼の霊を祀ったことが始まりとされています。

史跡樺崎寺跡（上記説明文参照）の中に建ち、本殿は天和年間に再建されたものです。

鑁阿寺

建久7年（1196）、源姓足利氏2代義兼が邸内の持仏堂に大日如来を祀ったのが始まりとされ、その後3代義氏が堂塔伽藍を整備しました。

現在の本堂は正安元年（1299）、足利尊氏の父・貞氏が再建したもので、平成25年（2013）に国宝に指定されています。

下野國一社八幡宮

歴史は古く社伝によると、天喜4年（1056）、源義家が陸奥の豪族安倍氏追討（前九年の役）の際、戦勝祈願のため山城國の石清水八幡宮から八幡神を勧請したのがはじまりとされています。

「源姓足利氏発祥の地」であるとともに、今なお多くの文化財が伝わっています。

吉祥寺

弘長年間（1261～1263）、源姓足利氏5代頼氏を開基として創建。

境内には頼氏の供養塔のほか、室町時代の作とされる聖観世音菩薩坐像が祀られています。市民からは「あじさい寺」として親しまれています。

法楽寺

建長元年（1249）、源姓足利氏３代義氏を開基として創建。かつては「阿弥陀が池」と呼ばれる広大な園池や阿弥陀堂を配する浄土庭園が広がっていました。

本堂の南側の義氏墓所には、五輪塔や宝篋印塔が並んでいます。

法玄寺

足利義兼の長男義純が母北条時子の菩提寺として創建した寺で、境内には時子姫の墓である五輪塔があります。なお、書家で詩人の相田みつを先生の墓もあり、全国各地から墓参に来ます。寺の塀と前面の水路が足利らしい雰囲気を漂わせています。

源姓坂本氏顕彰会

本会は平成 28 年5月に発足しました。足利市民にも忘れられていた足利尊氏子孫の会津藩士源姓坂本氏の江戸時代（在会津若松城下）の 180 年の事績、足利での明治、大正時代の足跡を研究していく事を目的としています。平成 29 年6月と平成 30 年7月に会津若松市にて現地調査を行っています。

会員

足利市、足利商工会議所、
（一社）足利市観光協会、
下野國一社八幡宮、鑁阿寺、
樺崎八幡宮、法玄寺、
法楽寺、吉祥寺、
光得寺、善徳寺、
源姓坂本氏顕彰会

善徳寺

応安元年（1368）、足利尊氏を開基、仏満禅師を開山として創建された寺です。

本堂の天井板絵のほか、尊氏公の木坐像や位牌が伝わっています。また、整然とした庭は、訪れる人の心を和ませてくれます。

光得寺

足利氏3代義氏の開基といわれ、尊氏の重臣高師直や南宗継らの五輪塔19基が祀られています。明治初期の神仏分離令に伴い、樺崎寺から法縁ある光得寺に移設され、以降大切に保護されてきました。